

湿潤療法について

湿潤療法とは？

傷口を『よく洗う』『消毒しない』『乾かさない』を3原則として行う治療法です。

メリット

- ①傷が早く治る
- ②痛みが少ない
- ③傷跡が残りにくい



湿潤療法の実際

1. 傷口を水道水でよく洗う

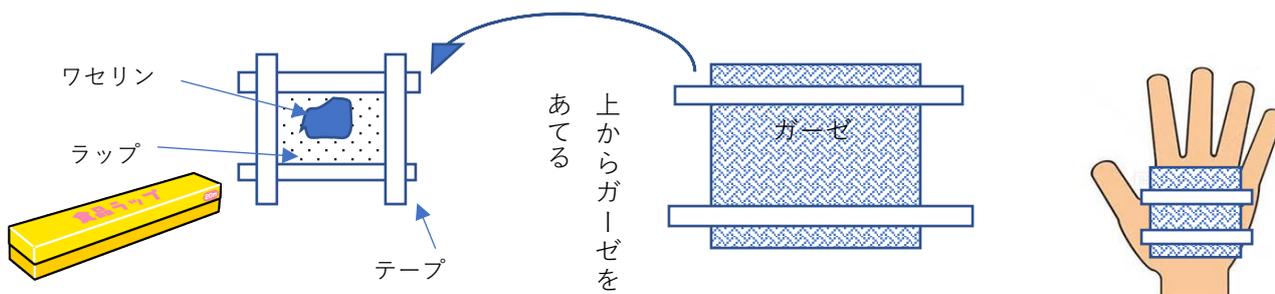
傷口に石や砂、ごみなどが残っていると感染の原因となるので、よく洗い取り除きます。

2. 傷口の処置

洗浄後、ガーゼで水分をふき取る。出血している場合は、ガーゼで傷口を押さえて止血します。

3. 傷口の保護（傷を乾かさないようにする）

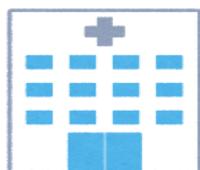
傷にワセリンを塗り（無ければそのままでもOK）、市販の食品用ラップを傷より少し大きめに切って傷を覆い、周りに隙間無くテープを貼ります。滲み出した浸出液を吸収させるため、ひと回り大きいガーゼをラップの上からあて、テープで止めます。ラップは最低でも1日に1回取り替えましょう。その際は傷口を流水とガーゼできれいに洗います（ワセリンを洗い流すにはぬるま湯が有効）。



4. 治療の完了

傷がピンク色になり、新たな皮膚ができれば完了です。新しい皮膚はシミになりやすいため、1ヶ月は日焼け止めを塗るなどの紫外線対策をしてください。

★傷の周囲が赤く腫れる、ズキズキした痛みがある、膿が出る場合は、皮膚科に受診しましょう！！



もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學